

「え、無駄なこと？ 仕事に無駄なことなんてないのに」と、心の中で戸惑う私。入社間もないころの私は、この仕事が無駄かどうか考える余裕なんかなくて、とにかく仕事を覚えるのに必死で、マッパで突っ走っていたけどなあ……と、昔のことを思い出しながらも、私の気持ちは横に置いて、まずはMさんの気持ちをしつくり聴くことにした。

Mさんの理想は高く、

求める仕事と違う

正解急ぎおぼろげ



イラスト・多田くにお

「このまま、じっとしているのは嫌。早く仕事に就きたい」。話の端々には再就職への意欲も感じられる。それなのに、二言目には「でも、私は……」だって、そんなことしたって……と、後ろ向き。あきらめとも反発とも取れることばかり口にする。しばし沈黙。私はMさんの目を見つめ、「いろんな仕事を経験して初めて見えてくるものもあるんじゃないかな？ 遠回りをせずに『正解』を出したい気持ちには分かるけれど、初めからすべて否定していたら、今日のお弁当に入れた、大好きなエビフライも食べた気がしない。ハーツ。ため息一つ。でも、ためだめ、気持ち切り替えなくっちゃ」。一カ月後。相談室にMさんが来た。私はドキリとした。Mさんは照れながら「私、再就職できました」との報告。ウツソー！ わざわざ報告に来てくれたの？ うれしい！ 「良かったね〜！」と

何でも任せてもらえる、デキる女性になりたいのに、現実には、誰にでもできる仕事ばかりがまわってきて悔しいという。私に「私、再就職できました」との報告。ウツソー！ わざわざ報告に来てくれたの？ うれしい！ 「良かったね〜！」と

手を取り喜んだ。うん、うん、本当に良かった。私は目頭が熱くなるのを感じた。

(福井新聞社提供)